

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教と文化	①/②	11117	Ⅲ	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
尾崎 秀夫	選択	2			

授業の到達目標

とりわけ日本では宗教を非科学的なもの、科学と対立するものとの考えが根強い。キリスト教に关しても、教会は科学の発達に反対の立場をとってきたと考えられている。本講義では、キリスト教と科学の関係について再検討する。この授業ではE（倫理）に重点を置く。

授業の概要

まず、聖書と科学の関係を考察する。聖書、たとえば旧約聖書の冒頭部分などは現代の科学で否定されているが、キリスト教はそれをどのように考えてきたのであろうか。次に地動説の出現に対してキリスト教がどのように対応したかを考察する。一般に、キリスト教は新しい考えに否定的で、それを弾圧したとされるが、コペルニクスやガリレオなどに対する教会の対応を検討する。

授業計画

- 1 導入
- 2 聖書と歴史
- 3 出エジプトと歴史研究(1)
- 4 出エジプトと歴史研究(1)
- 5 古代における宇宙観
- 6 古代における天動説と地動説
- 7 中世における天動説
- 8 コペルニクス(1)
- 9 コペルニクス(2)
- 10 ジョルダノ・ブルーノの地動説
- 11 ガリレオ・ガリレイ(1)
- 12 ガリレオガリレイ(2)
- 13 科学の発達とキリスト教
- 14 聖骸布
- 15 まとめ

授業の方法

講義を中心に、意見を求めたり、話し合いを取り入れたりする。

準備学修

地動説について復習しておくこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

とくに定めない。

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習 I	ET①/ET②/ET③/ET④/ET⑤	11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
宮副 紀子／小野 礼子／佐伯 瑠璃子／白井 昭彦／吉野 美智子	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- 1 (1)オリエンテーション
(2)言語1
- 2 オリエンテーション(図書館の利用方法について)
- 3 (1)言語2
(2)オリエンテーション(記事レポートについて)
- 4 (1)言語3
(2)読書
- 5 (1)言語4
(2)読書
- 6 (1)社会1
(2)プレゼンテーション・ツールの使用法
- 7 (1)社会2
(2)読書
- 8 (1)社会3
(2)読書
- 9 (1)社会4
(2)レポートの書き方
- 10 (1)数学1
(2)レポートの書き方
- 11 (1)数学2
(2)読書
- 12 (1)数学3

- (2)プレゼンテーション
- 13 (1)数学4
(2)プレゼンテーション
- 14 (1)確認試験1
(2)読書
- 15 (1)確認試験2
(2)代表者プレゼンテーション

授業の方法

演習形式

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

リメディアル 50%（平常点70% 定期試験30%）
後半学習50%（平常点70% eラーニング30%）

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育仲社）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト10クリアすることとする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習 I	PC①/PC②/PC③/PC④		11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美／中園 佐恵子／成木 智子／渋谷 美智	必修	1				

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とS(奉仕)を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- 1 (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)
(2)言語1
- 2 オリエンテーション(図書館の利用方法について)
- 3 (1)言語2
(2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
- 4 (1)言語3
(2)キャンパスライフ(クラスでの自己紹介)
- 5 (1)言語4
(2)キャンパスライフ(相談)
- 6 (1)社会1
(2)キャンパスライフ(課外活動について)
- 7 (1)社会2
(2)キャンパスライフ(課外活動について)
- 8 (1)社会3
(2)キャンパスライフ(課外活動について)
- 9 (1)社会4
(2)スタディスキル(受講)
- 10 (1)数学1
(2)スタディスキル(理解と表現1)
- 11 (1)数学2
(2)スタディスキル(理解と表現2)
- 12 (1)数学3

- (2)キャンパスライフ(今後の学修について)
- 13 (1)数学4
(2)キャンパスライフ(学生相談)
- 14 (1)確認試験1
(2)スタディスキル(理解と表現3)
- 15 (1)確認試験2
(2)スタディスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

リメディアル 50% (平常点70% 定期試験30%)
後半学習50% (平常点70% eラーニング30%)

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト(育仲社)
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト10クリアすることとする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習 II	ET①/ET②/ET③/ET④/ET⑤		11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子／小野 礼子／佐伯 瑠璃子／白井 昭彦／吉野 美智子	必修	1				

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とS(奉仕)を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- 1 (1)言語1
(2)今学期の目標を設定する。
- 2 (1)言語2
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- 3 (1)言語3
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- 4 (1)言語4
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- 5 (1)社会1
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- 6 (1)社会2
(2)レポート作成:参考文献様式の復習。
- 7 (1)社会3
(2)レポート作成:参考文献様式の復習と間接引用のやり方。
- 8 (1)社会4
(2)レポート作成:間接引用のやり方。要約とは。
- 9 (1)数学1
(2)レポート作成:要約をする。
- 10 (1)数学2
(2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。
- 11 (1)数学3
(2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。

- 12 (1)数学4
(2)Kaisei English and Tourism Festival
- 13 (1)確認試験1
(2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。
- 14 (1)確認試験2
(2)レポート作成:教員からの添削をもとにレポートを完成する。
- 15 (1)確認試験3
(2)教員からの添削をもとにレポートを完成し、提出する。

授業の方法

演習形式

準備学修

テキストでしっかりと、予習・復習すること。eラーニングを活用すること。準備学習には60時間以上かけること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト(育仲社)

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	e		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

研究テーマは「観光による地方創生」で観光による地域経済の活性化を図るための仕組みについて研究する。地域社会との関りから地域住民にとっても有益である「持続可能な観光」のあり方を研究する。特に訪日観光客（インバウンド）を地方へ誘客するためのマーケティングやプロモーションについての理解を深め、地域の観光消費額を上げることを主眼とする。フィールドワークを通じて調査方法を学び、発表を通じてプレゼンテーション力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光による地域活性化についての事例研究を行う。近畿圏内の観光資源調査（フィールドワーク）を実施準備を行い、観光地における課題と解決策を調査する。調査方法や観光地マーケティングやマネジメントを学び、観光による地域創生のあり方について考察する。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 観光による地方創生①
- 3 観光による地方創生②
- 4 観光による地方創生③
- 5 観光による地方創生④
- 6 観光地と地方創生⑤
- 7 観光地のブランド化①
- 8 観光地のブランド化②
- 9 観光地のブランド化③
- 10 フィールドワーク準備①
- 11 フィールドワーク準備②
- 12 フィールドワーク準備③
- 13 フィールドワーク準備④
- 14 フィールドワーク準備⑤
- 15 まとめ

授業の方法

課題テーマについてリサーチとプレゼンテーション及びディスカッションを主体に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、課題30%、プレゼンテーション20%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

適時プリントを配布する。

参考図書

『DMO観光地経営のイノベーション』 高橋 夫著 学芸出版
『観光DMO設計・運営のポイント』 日本政策投資銀行 地域企画部著 ダイヤモンド社
『観光ブランドの教科書』 岩崎邦彦著 日本経済新聞出版
『地域が稼ぐ観光』 大羽昭仁著 宣伝会議

留意事項

演習は自主性、積極性が求められる。
フィールドワークへの参加は必須である。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	f		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	必修	2				

授業の到達目標

研究テーマは「ユニバーサルデザイン」と「心のバリアフリー」の交通機関や施設などの取組について調査し、課題解決について自らの考えを持ち、プレゼンテーション力を養う。
このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）、E（倫理）、In（国際性）を学ぶ。

授業の概要

交通機関、観光スポット、市内施設などの「ユニバーサルデザイン」と「心のバリアフリー」についての取組と課題解決についてフィールドワークなどを通して学び、プレゼンテーションとディスカッションを中心に進めます。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 移動困難者の特性
- 3 擬似体験 I
- 4 擬似体験 II
- 5 鉄道のユニバーサルデザイン I
- 6 鉄道のユニバーサルデザイン II
- 7 バス・タクシーのユニバーサルデザイン I
- 8 バス・タクシーのユニバーサルデザイン II
- 9 船舶のユニバーサルデザイン I
- 10 船舶のユニバーサルデザイン II
- 11 航空のユニバーサルデザイン I
- 12 航空のユニバーサルデザイン II
- 13 市内施設のユニバーサルデザイン I
- 14 市内施設のユニバーサルデザイン II
- 15 まとめ

授業の方法

課題について、調査とプレゼンテーション及びディスカッションを主体に行う。

準備学修

授業中に課題を出す。

課題・評価方法、その他

平常点50%、プレゼンテーション50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

適時プリントを配布する。

留意事項

自主性、積極性が求められる。
フィールドワークも行う。

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	f	13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
白井 昭彦	必修	2			

授業の到達目標

研究テーマは「ユニバーサルデザイン」と「心のバリアフリー」の交通機関や施設などの取組について調査し、課題解決について自らの考えを持ち、プレゼンテーション力を養う。
このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）、E（倫理）、In（国際性）を学ぶ。

授業の概要

交通機関、観光スポット、市内施設などの「ユニバーサルデザイン」と「心のバリアフリー」についての取組と課題解決策についてフィールドワークなどを通して学び、プレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。

授業計画

- 1 観光スポットのユニバーサルデザインⅠ
- 2 観光スポットのユニバーサルデザインⅡ
- 3 個人課題の研究発表調査
- 4 個人課題の研究発表調査
- 5 個人課題の研究発表調査
- 6 個人課題の研究発表調査
- 7 個人課題の研究発表調査
- 8 個人課題の研究発表調査
- 9 個人課題の研究発表調査
- 10 企画書を作成する。
- 11 企画書を作成する。
- 12 企画書作成
- 13 企画書発表
- 14 企画書発表
- 15 企画書発表とまとめ

授業の方法

発表とディスカッション形式で行う。

準備学修

課題については授業中に出す。

課題・評価方法、その他

平常点50%、発表50%

欠席について

大学規定通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

留意事項

自主性及び積極性が求められる。

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	g	13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
吉野 美智子	必修	2			

授業の到達目標

英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

授業計画

- 1 イントロダクション、卒業研究構想発表
- 2 A Midsummer Night's Dream
- 3 A Midsummer Night's Dream
- 4 A Midsummer Night's Dream
- 5 A Midsummer Night's Dream
- 6 A Midsummer Night's Dream: Interpretation
- 7 A Midsummer Night's Dream: Presentation
- 8 卒業研究第 1 章構想発表
- 9 Frankenstein
- 10 Frankenstein
- 11 Frankenstein
- 12 Frankenstein
- 13 Frankenstein: interpretation
- 14 Frankenstein: presentation
- 15 卒業研究の第二章構想発表

授業の方法

当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点（発言）70%、レポート20%。

欠席について

規定に従う。

テキスト

適時指示をする。

教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ精神論			13272	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	必修	2				

授業の到達目標

ホスピタリティのあり方について意見や姿勢を持ち、実際の事例について具体的な提案ができるためのKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を身に付ける。

授業の概要

ホスピタリティについて、障害者・高齢者・外国人などの特性を理解しながら学ぶ。

授業計画

- 1 講義概要、評価方法、シラバス（講義計画）
- 2 ホスピタリティとは？
- 3 交通機関・宿泊施設利用困難者
- 4 肢体不自由者
- 5 視覚障害者
- 6 聴覚障害者
- 7 精神障害者
- 8 発達障害者
- 9 高齢者
- 10 外国人
- 11 その他利用困難者
- 12 航空会社のサービス
- 13 国際観光とホスピタリティ
- 14 まとめⅠ
- 15 まとめⅡ
- 16 定期試験

授業の方法

授業中に小グループで話し合うなど、ディスカッションも取り入れながら進める。

準備学修

新聞記事やニュースなどに注目し、ディスカッションの際のヒントとするよう心掛ける

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

教室での学習に50%の評価をしているので、欠席は減点の対象となる。

テキスト

各回授業中にプリントを配布する。

参考図書

服部勝人「ホスピタリティ学のすすめ」〔ホスピタリティ・マネジメント学原論〕（丸善株式会社）
 塹江隆「ホスピタリティと観光産業」（文理閣）
 福島文二郎「ディズニーのホスピタリティ」（中経出版）
 山上徹「ホスピタリティ精神の深化」（法律文化社）
 高野 登「ホスピタリティノート」（かんき出版）

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合には、オフィスアワーを活用すること。
 各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
異文化理解			13409	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標

世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。また、英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化についての理解を深める。
 このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

多様な文化的背景を持つ複数のゲストスピーカーを講師に招き、習慣や行動、その背景にある価値観などを学ぶ。また、グループで様々な国・地域の歴史・社会・文化の特徴について発表し、全体で討議することを通して、国際理解を深める。

授業計画

- 1 受講のガイダンス
- 2 世界史の中の英語と文化①（ヨーロッパ/北アメリカ/オセアニア地域を中心に）
- 3 グループ課題の発表と討議
- 4 世界史の中の英語と文化②
- 5 世界史の中の英語と文化③
- 6 文化とは何か
- 7 異文化の認識
- 8 振り返り
- 9 価値観
- 10 差別を考える①
- 11 差別を考える②
- 12 異文化コミュニケーション
- 13 異文化摩擦/カルチャーショック
- 14 全体のまとめ
- 15 試験

授業の方法

講義を中心とし、グループ発表とディスカッションを取り入れる。また、各項目ごとに自身の意見や考えを復習として提出し、それらを共有することで学びを深める。

準備学修

WEBで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点（70%）、定期試験（30%）

欠席について

学則に従い、欠席は減点とする。

テキスト

『異文化理解のストラテジー』（最新版） 佐野正之・水落 朗・鈴木龍 著 大修館書店

参考図書

必要に応じて授業前、または授業中に適宜紹介する。

教員連絡先

saeki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
 各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光概論			13426	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務／企業経営			

授業の到達目標

そもそも観光とは何か。観光の始まりと現代社会での観光の役割を学ぶ。従来の観光を単なる物見遊山でなく社会の課題を観光の視点から考察する。観光全般の基礎知識の習得が目標である。観光概論において履修者の到達目標は、①観光「Tourism」を理解する②観光の歴史を理解する③観光の背景と文化を理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn（国際性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

観光とは何か。観光の成り立ちから現代までの観光に関する基礎的な知識を学ぶ。特に、地域観光における歴史、文化の変遷を基本として講義が進められる。その上で、観光が果たす役割や、地域への影響を考え、観光の重要性を理解する。観光概論は歴史、経済、政策、心理、主な観光産業等幅広い内容で講義される。

授業計画

- 1 ガイダンス
観光の現状を理解する。
- 2 観光学と観光の歴史
(観光の語源と定義・日本観光史他)
- 3 世界の観光史
- 4 観光と地域文化
(観光と環境)
- 5 新時代の観光文化
(観光資源とコンテンツツーリズム)
- 6 観光と多文化理解
- 7 観光心理
- 8 観光とマーケティング
- 9 観光の諸政策
(観光政策と仕組み)
- 10 主要な観光事業・鉄道事業
- 11 主要な観光事業・航空運送業
- 12 主要な観光事業・宿泊業
- 13 主要な観光事業・旅行業
- 14 主要な観光事業・遊園地とテーマパーク
- 15 観光学まとめ
総括試験

授業の方法

テキストとパワーポイントを併用して講義する。講義だけでなくグループディスカッションも取り入れていく。

準備学修

図書館に定期購読されている「観光経済新聞」や旅関連の雑誌等を読んでおくこと。

課題・評価方法、その他

課題30% 統括試験70%

欠席について

本学の規定通り。

テキスト

高柳直弥他『新時代の観光を学ぶ』八千代出版 2019

参考図書

デービット・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済新報社
岡本伸之『観光学入門』有斐閣
北川宗忠『現代の観光事業』ミネルヴァ書房
イザベラバード『日本奥地紀行』平凡社

留意事項

観光領域の基礎科目である。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
国際観光交流論			13427	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	選択	2	旅行会社、航空会社、ホテル、海外添乗、海外駐在、通訳ガイド			

授業の到達目標

観光庁のHPや観光白書などを通じて観光に関する専門用語を始め基本的な知識と考え方を習得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。その上で国際観光の重要性と我が国の現状を認識し、今後の国際交流のあり方や課題等について考察できるとともに様々な対応方針について自らの考えをまとめ、発表することができる。

授業の概要

世界観光機構（UNWTO）、OECD、日本の観光庁・JNTOなどのデータを基に、日本と諸外国の観光政策、国際交流の意義を理解する。

授業計画

- 1 講義概要、評価方法、シラバス(講義計画)
- 2 観光の魅力
- 3 都市コード・空港コード・航空会社コード
- 4 日本の観光政策と受入体制Ⅰ
- 5 日本の観光政策と受入体制Ⅱ
- 6 日本の観光動向Ⅰ
- 7 日本の都市の観光動向Ⅱ
- 8 訪日外国人消費行動
- 9 世界の観光政策と受入体制Ⅰ
- 10 世界の観光政策と受入体制Ⅱ
- 11 世界のMICE動向
- 12 世界の観光動向Ⅰ
- 13 世界の観光動向Ⅱ
- 14 日本の問題点
- 15 総まとめの後定期試験60分

授業の方法

パワーポイントを使用した講義形式が中心となるが、授業中に与えられた課題についての各自からの発表やグループでのディスカッションも取り入れる。

準備学修

ニュースなどを通じて日ごろから世界や日本の観光業界の動きなど情報収集する。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

教室での学習に50%の評価をしているので欠席は減点の対象となる。

テキスト

各回授業中にプリントを配布する。

参考図書

「観光白書」国土交通省編
「やさしい国際観光」財団法人国際観光サービスセンター、岐部武、原 祥隆著

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Business English			13935	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	選択	2				

授業の到達目標

このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を学ぶ。CDを聴きネイティブスピーカーの英語に慣れるようにする。ビジネスで実際に使われる慣用的な表現を学ぶ。TOEIC受検対策を兼ねている。また就活の社会常識として、実社会の現状について具体的に解説する。

授業の概要

仕事の仕組みや、標準的なビジネス・コミュニケーションを学ぶ。e-mailなどのオフィスの常識的な事務についても学ぶ。

授業計画

- 1 講義概要、教科書、評価方法、シラバス(講義計画、Unit 8 Tepehoning(1)-Answering
- 2 Unit 9 Telephoning(2)-Taking a Message
- 3 Unit 10 Telephoning(2)-Making an Appointment
- 4 Unit 11 Visiting a Client
- 5 Unit 12 Receiving a Visitor(1)-Preparation
- 6 Unit 13 Receiving a Visitor(2)-Meeting at Narita Airport
- 7 Unit 14 Receiving a Visitor(3)-A Business Lunch
- 8 Unit 15 Receiving a Visitor(4)-Visiting a Factory
- 9 Unit 16 Receiving a Visitor(5)-Sightseeing in Kyoto
- 10 Unit 17 Working for an International Exhibition
- 11 Unit 18 Preparing for the First Overseas Business Trip
- 12 Unit 19 The First Overseas Buysiness Trip(1)
- 13 Unit 20 The First Overseas Buysiness Trip(2)
- 14 Unit 21 The First Overseas Buysiness Trip(3)
- 15 総括 & 試験

授業の方法

シラバス通りに進むので予習、復習を励行すること。

準備学修

予習、復習の励行

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

教室での学習に50%の評価をしているので欠席は減点の対象になる。

テキスト

[BUSINESS TALK やさしいオフィス英語] 城由紀子、島田拓司、Edward J. Schaefer著 成美社

留意事項

毎回予習、復習を励行すること。

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合には、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
English for Tourism			13937	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	選択	2				

授業の到達目標

観光産業に必要な基本的英語を修得する。
観光英検3、2級レベル
KAISEIパーソナリティのIn（国際性）を学ぶ

授業の概要

駅、空港、ホテル、レストランなど各場面での必要な基本的な英語を学ぶ

授業計画

- 1 講義概要、教科書、評価方法、シラバス(講義計画)、Lesson 1:Tokyo Station
- 2 Lesson 1: Tokyo Station
- 3 Lesson 2: Exploring Metropolitan Tokyo
- 4 Lesson 3: Restaurant at Ginza
- 5 Lesson 4: Kakunodate, a town of Samurai and Cherry blossoms
- 6 Lesson 5: Old Private Houses in Takayama
- 7 Lesson 6: Hatcho Miso in Okazaki
- 8 Lesson 7: Toyota Automobile Museum
- 9 Lesson 8: Cormorant Fishing
- 10 Lesson 9: Uji Byodoin
- 11 Lesson 10: Kyoto Studio Park
- 12 Lesson 11: International Phone Calls
- 13 Lesson 12: Bakery Shops in Kobe
- 14 Lesson 13: White Heron Castle
- 15 総括 & 試験(60分)
- 16

授業の方法

教科書付属のCDを活用して授業を行う。

準備学修

教科書及び付属のCDを活用して予習・復習をすること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

教室での学習に50%の評価をしているので欠席は減点の対象になる。

テキスト

DISCOVERING JAPAN through Tourism English[観光英語で日本発見!]

著者：河原俊昭、榎木蘭鉄也、岡戸浩子、小宮富子、吉川 寛、石川有香、徳地慎二、ジェイムス・ドレイトン 英宝社

参考図書

観光英語検定試験全国語学ビジネス観光教育協会が実施している民間資格の観光英語検定試験2級、3級問題集

留意事項

予習・復習の励行。

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ (国内)			13969	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎／白井 昭彦	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

将来、観光関連企業（旅行会社・ホテル・観光局など）及その他の企業に従事することを考えている者が就業体験により、自己の適正を知り、働くことの本質を学ぶ。インターンシップ参加に際してのエントリーシート作成、業界研究や企業コンプライアンスについて理解することを目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのS（奉仕）とA（自立）を養う。

授業の概要

インターンシップは、事前研修と就業体験（インターンシップ）及び体験発表からなる。事前研修では業界研究や企業コンプライアンスなどについての講義を行い、グループワークでその理解を深めていく。またインターンシップ参加へのエントリーシート作成を行う。就業体験は夏休みに実施され、インターンシップ期間は受け入れ先により5日～1週間となる。尚、体験発表は9月中旬（夏休み期間）に実施する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 インターンシップとは
- 3 企業コンプライアンスについて
- 4 業界研究①
- 5 業界研究②
- 6 エントリーシート作成①(自己PR)
- 7 エントリーシート作成②(志望動機など)
- 8 インターンシップ受け入れ企業研究
- 9 インターンシップの目標設定
- 10 就業体験①
- 11 就業体験②
- 12 就業体験③
- 13 就業体験④
- 14 就業体験⑤
- 15 就業体験発表

授業の方法

講義と就業体験及びプレゼンテーションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題は就業体験レポートとプレゼンテーション
評価は平常点30%、就業体験50%、プレゼンテーション20%
就業体験は5日間で35時間とする。

欠席について

事前研修の欠席が多い場合は、インターンシップ参加を取り消す場合がある。
就業体験欠席者は単位認定されない。

テキスト

随時プリントを配布する。

留意事項

インターンシップ受入先は、主に観光・ホスピタリティ産業が対象である。それ以外にキャリアセンター扱いの企業も認める。
学生自身が修業体験先を選定した場合は事前審査を経て認める。
（5日間の就業体験が必要）
履修者が多い場合は選考を行う場合がある。
大学がインターンシップ先を提供できない場合がある。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ・マネジメント			13831	Ⅱ/Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	選択	2	宿泊業実務/企業経営			

授業の到達目標

企業環境を取り巻く環境は厳しい。特にホスピタリティ産業は製品・サービスが製造業などに比べ差別化が難しい。顧客に真の価値を理解してもらうためには組織が重要になる。サービス提供者と財（製品・サービス）が 体となる必要がある。本講座は、ホスピタリティ産業におけるマネジメントをテーマに、組織管理と従業員のモチベーション向上に何が必要かを理解し学修する。企業経営の中心に必要な戦略を理解し学修する。ホスピタリティ産業の基礎的なマネジメント能力を身に付けることが目標である。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS（奉仕）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

講義は、理論と事例研究に分けて構成されている。前半は、ホスピタリティとサービスの違い、マネジメントの理論とマーケティングの基本を中心に講義される。市場における競争優位は何を意味するのか。製品の差別化とはどうあるべきか、模倣されない差別化とは何かを学ぶ。後半は、ホスピタリティ産業の事を取り上げ、その本質を理解する。特に、理念と組織行動に焦点をあて、おもてなしとは何か、収益とはどこからくるのかを学ぶ。市場におけるマクロ環境を理解しながら競争力について学ぶ。特に、コア・コンピタンス経営に焦点を当て、成長する企業（ホテル・旅館・テーマパーク等）を考察する。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 ホスピタリティの歴史と文化
- 3 ホスピタリティ・サービスの語源
- 4 ホスピタリティ産業の製品特性
- 5 マーケティング戦略・マーケティングミックス
- 6 マーケティング戦略・インターナショナルマーケティング
- 7 マーケティング戦略・労働生産性
- 8 旅行業のプロが選ぶホテル・旅館NO1の戦略
- 9 事業の破綻と再生から学ぶ
- 10 高級ホテルのサービス手法を探る（ワオとは何か）
- 11 ニッチ市場を狙う旅行代理店（高額所得者を顧客に持つ旅行代理店のマネジメント）
- 12 企業理念と共感の企業戦略・大阪のビジネスホテルの事例から

- 13 テーマパークの戦略・USJの事例から
- 14 ホスピタリティ産業の戦略のまとめ
- 15 まとめと総括試験

授業の方法

パワーポイントを使い講義を進める。テキストは使用しないのでノートをとること。また、DVDを利用して事例研究をおこなう。

準備学修

ホスピタリティ関連の書籍を読むこと。日刊紙、経済新聞等を読むこと。

課題・評価方法、その他

課題30%
総括試験70%

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

特に予定していない。

参考図書

服部勝人（2004）『ホスピタリティマネジメント入門』丸善
Jay B. Barney（岡田正大訳）（2011）『企業戦略論』ダイヤモンド社
P.F.Drucker（上田惇生訳）『マネジメント』
Kotler（平井祥訳）（2003）『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション

留意事項

講義だけでなく、講義で得た知識で社会を観る事で講義の内容が活かされる。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光マーケティング論			13833	Ⅱ/Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	選択	2	宿泊業実務/企業経営			

授業の到達目標

観光はディステーションと輸送機関、そして宿泊業の連携が重要である。特定の企業だけが独り勝ちすることはない。マクロ環境や地域性の影響を受ける産業である。観光マーケティング論ではマクロ環境を理解し、顧客が求める製品・サービスは何か明確にすることが目標である。その上で、顧客価値を高めるにはどのようにすればよいかを考察する。ビジネスにはWin-Winの関係が必要不可欠である。観光マーケティングは観光産業全般に関する製品・サービスとリレーションを学修し、マーケティング全般の理解を深める。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

講義はコトラーの提唱するホスピタリティ&ツーリズムマーケティングを中心に構成されている。マーケティングの基礎的内容から産業の特性やマーケティング戦略、ブランディング・ポジショニングなど基本的なフレームワークを用いて学修する。講義においてはマーケティング理論を理解するために事例を使い解説される。事例として、観光地・ホテル業・旅行業・レストラン業・ファストフード業・航空業などを取り上げる。

授業計画

- 1 ガイダンス:観光マーケティング論概要
- 2 観光とマーケティング
- 3 ホスピタリティ&ツーリズムマーケティングの商品特性
- 4 戦略計画におけるマーケティングの役割
- 5 マーケティング環境
- 6 マーケティング情報システム
- 7 消費者の心理と購買行動
- 8 競争市場の原理
- 9 市場細分化における戦略
- 10 マーケティングミックス(製品)
- 11 マーケティングミックス(価格)
- 12 マーケティングミックス(流通)
- 13 マーケティングミックス(プロモーション)
- 14 ホスピタリティ産業における事業再生マネジメント手法
- 15 まとめ

総括テスト

授業の方法

パワーポイントでの講義とグループでのディスカッションから構成される。テキストがないのでノートを取ることを。

準備学修

新聞の経済欄や観光経済新聞を読むこと。

課題・評価方法、その他

課題30%総括試験70%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

なし。資料配布する。

参考図書

Kotler (2003) 『ホスピタリティ&ツーリズムマーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter (2012) 『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney (2011) 『企業戦略論』上・中・下ダイヤモンド社

留意事項

基礎科目(観光概論、観光事業論)の発展科目である。観光領域を学ぶ学生は履修する事。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
航空ツーリズム論			13836	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	選択	2	航空会社・旅行会社			

授業の到達目標

航空機はどのようにして飛んでいるのか、アライアンスの必要性は何か、ユニバーサルサービスの重要性など、エアラインビジネスの概要をさまざまな角度から多面的に学習して理解する。また民間航空の発展や航空政策の規制緩和などについて、その概要や歴史的な流れ、社会・経済への影響などを理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。

授業の概要

エアラインビジネスのオペレーションの概要や歴史、航空政策、経営特性、経済特性、経営動向やエアラインが置かれている社会環境や課題などについてできるだけ幅広く、分かりやすく解説する。

授業計画

- 1 講義概要、評価方法、シラバス(講義計画)乗員・CA・整備、グラウンドスタッフ等エアラインの仕事の概要
- 2 航空機と航空管制の概要(航空機の概要、航空管制の概要)
- 3 民間航空の歴史(現在までの世界と日本の民間航空の発展の歴史と現在の状況)
- 4 航空自由化への流れ(当初は保護政策から始まった航空政策の世界的な規制緩和への流れについて)
- 5 空港政策 (日本の空港の概要、空港民営化の概要、世界の主要空港の民営化の流れ)
- 6 エアラインビジネスの特性 (エアラインビジネスの経営面の特性、経済的な特性)
- 7 ネットワークとアライアンス(航空路線ネットワークの考え方や効果、アライアンスの歴史と概要、赤字路線維持策など)
- 8 運賃とレベニューマネジメント (航空運賃の制度、仕組みと収入最大化を目指すレベニューマネジメントの概要)
- 9 FFPとブランド、CS(優良旅客囲い込みのためのFFP(フリーケントフライヤープログラム)の概要、ブランドロイヤリティマーケティングの考え方、CS(消費者満足)の考え方)
- 10 LCC(低コストエアライン)の台頭(LCCの歴史と経営面での特徴など)
- 11 航空とホスピタリティ、ユニバーサルデザインの重要性
- 12 航空貨物ビジネス (航空旅客ビジネスとの違い、航空貨物輸送の概要など)

- 13 航空と観光(航空が観光・地域活性化に果たす役割)
- 14 航空業界の最近の動向 (航空業界の最近の動向について、未来の航空)
- 15 まとめ、定期試験

授業の方法

講義を中心とするが学生への課題ではグループディスカッションを取り入れる。

準備学修

関連事項をWEB等で参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

教室での学習に50%の評価をしているので欠席は減点の対象となる。

テキスト

講義においては、毎回講義資料を配布して、パワーポイントを使用して説明する。

参考図書

『航空産業入門 第2版』(株)ANA総合研究所
国土交通省WEBページ

留意事項

世界の航空業界の動きや日本の観光立国に向けた訪日観光客や観光業界に関するニュースなどは常に注目しておくこと。

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。